

外から日本を見ていると

<自分にとってのデンマーク研修>

堀江奈未

★はじめに

デンマーク研修では、毎日頭がいっぱいになるぐらいの新しい知識と発見の連続でした。今回の研修に参加し、保育園から高齢者ケアセンターまで、デンマーク人の一生と社会福祉を9日間で学び、たくさんの刺激を受けてきました。

★幼い頃から自己決定

森の幼稚園では、木登りをしている男の子がもし木から落ちたとしても、先生に苦情を言うてくる保護者はいないということでした。

日本では考えられないことだと思いました。日本だとすぐ問題になってしまいます。危ない遊びは、まずさせないだろうし、木から落ちたなんてことになると、学校が責任を問われるだろうし、保護者が黙ってはいないと思います。

これもデンマークの子供たちが幼い頃から自己決定し、自分の意思で物事を決めていく考え方が備わっているからだと感じました。

★自分で考え発表する

国民学校を訪問した際には、1年生の体育の授業 3年生の理科の授業の見学をしました。体育の授業では15人のグループを2組作り、みんなで話し合いどんなゲームをするかを決めていました。理科の授業では前回の授業で森に行き、小動物を見つけ、自分でその小動物のことについて調べ、調べたこと、発見したことをお互いに伝えあっていました。日本の学校の授業と違い、先生が一方的



に話す授業ではなく生徒が主体となり、自分で考え発表するスタイルだと知り、こんなにも日本の授業と違うということを知り、驚きました。

また理科の授業の中で、日本の皆さんへの質問はありますか？と先生が言うと、ほとんどの子が、一斉に手を挙げていました。圧倒さえてしまうほどでした。こんなに私たちのことを知ろうとしてくれているという姿勢にも感動したし、デンマークの子供たちの積極さにも驚きました。

デンマークの子どもたちの積極さを私も見習わなければと思いました。





★入居者が中心

高齢者ケアセンターでは、入居者の部屋を見せていただくとベッドや備え付けのキッチン以外はすべて自分の家具や雑貨を持ち込んでいるとのことで、まるで自宅を見せていただいているようでした。

また、どの施設でもスタッフが時間に追われていないという印象を受けました。日本では、スタッフが現場を走り回っていますが、デンマークではゆっくりとした時間が流れていることの違いに驚きました。

朝食、昼食、夕食は、何時までにすませてくださいと言うだけとのことで、みんなで一緒に食事はとらないようでした。ここでも入居者が中心となり自分がしたい生活をし、スタッフはあくまで生活のお手伝いをしているだけという印象を受け、日本の特養との違いを感じました。

また早くから IT 化が進んでいて、iPhone で一人ひとりの入居者の状態を管理し、一つの画面に状態が色分けされてでてくるようになっていました。

★スタッフは見守り少し手伝う

このようにすべての施設訪問で共通していえることは、何でもまず本人がやりたいようにやるということです。それをスタッフは見守り少し手伝うだけということです。日本人は子育てでも介護でも優しさから、何でも

やってあげようとしてしまうところがありますが、デンマーク人は、自分で出来ることはやってあげないということをどの施設訪問でも感じました。

★自分でできることから

今回研修に参加して、日本もデンマークの自己決定の考えやスタッフの仕事の仕方を真似して、取り入れたらいいなと思いました。

しかし、国民性の違いや土地の問題、人口の問題などもあり難しい部分もあるということを知りました。

また、日本で当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかったということに気付く毎日で、夏代さんがおっしゃっていたように外から日本を見ることができ、日本との違いを発見することができました。

デンマーク研修で、見て、聞いて、感じ、吸収してきたことを大切に、今後の人生や仕事の中で活かしていきたいです。

そしてデンマークで経験したことを職場の人や私の周りの人に話し、報告していきたいです。

